2022年『呂氏春秋』現代語訳

宋人有(そうひとリル)取(ヲ)レ道者(ノ)一。

訳：宋人で道を進む〔旅する〕者がいた。

其(ノ)馬不(マ)レ進、剄(ころシテ)　而投(とうズ)(ヲけい)二之(ノ)瀸水一。

その（者の）馬が（道を）進まないので、殺して瀸水に投げ入れた。

又復(タタルモ)取(ヲ)レ道(ノうま)、其(マ)馬不(タシテ)レ進(ズ)、又剄(ヲけい)　而投(ヲけい)二之(ノ)瀸水一。

また再び（他の馬で）道を進むけれども、その馬も（道を）進もうとしないので、また殺して瀸水に投げ入れた。

如(キかクノこと)レ此(タビアリ)者三。

このようなことが三度あった。

雖(モぞうほの)三造父之(ノ)a所(トスルヲ)二以威(ヲ)一レ馬、不(ギ)レ過(ギ)レ此(ニ)矣。

（昔の車馬を御する名人であった）造父が馬を威圧して制御した方法といっても、これほどまでのことはやらなかった。

不(シテ)レ得(ヲ)二造父之(ノ)道(ヲ)一而徒(たダ)得(ルモ)二其(ノ)威(ヲ)一、無(シ)レ益(シ)二於御(ニ)一。

造父のような馬を扱う方法を会得せずに、ただ馬を威圧する方法だけを身につけても、（馬を）制御するのに何の役にも立たない。

b人主之(ノ)不肖(じんしゅのふしょうナル)者有(リタル)レ似(ニ)二於此(ニ)一。

愚かな君主はこれと似ている点がある。

不(シテ)レ得(ヲ)二其(ノ)道(ヲ)一而徒(ダ)多(クス)二其(ノ)威(ヲ)一。

君主としての（国を治める）術〔道〕〔徳〕を会得せず、ただ君主としての威圧を増す。

オンライン 東大合格 敬天塾

威愈多、c民愈不レ用。

威圧が増せば増すほど、民は一層、役立たせられなくなる。

亡国之主、多下以二多威一使中其民上矣。

国を亡ぼしてしまう君主というのは、過度な威圧によって自国の民を働かせることが多い。

故d威不レ可レ無レ有、而不レ足二専恃一。

それで、（民への）威圧はなければならない〔必ず必要だ〕けれども、ひたすらそれ（＝威圧）だけに頼ることはできない。

e譬レ之若二塩之於一レ味。

これを喩えると、料理の味における塩のような存在である。

凡塩之用、有レ所レ託也。

一般的に塩の使用方法は、委ねるもの（＝料理の素材）（の存在）が前提となっている。

不レ適則敗レ託而不レ可レ食。

適量でなければ、料理の素材を台無しにしてしまい、食べられなくなる。

威亦然。

威圧もまた同じである。

必有レ所レ託、然後可レ行。

必ず委ねるものが存在して、その後に（初めて）実行すべきである。

悪　乎託。託於愛利。
（では）何に委ねるのか。（それは民に施す）愛情と実利に委ねるのである。

愛利之心諭、威乃可行。
愛情と実利を施そうとする心を（民に）理解されてはじめて、威圧（的なやり方）は実行すべきである。

威太甚則愛利之心息。
（もし君主による民への）威圧が大変甚だしければ、
（君主自身の、民へ）愛情と実利を施そうとする気持ちが消える。

愛利之心息、而徒疾行威、身必咎矣。
（君主が）愛情と実利を施す心を失って、ただ厳しく威圧を行うと、（君主の）身に必ず災いがおこる。

f 此殷夏之所以絶也。
これが、（古代王朝の）殷や夏が滅んだ原因である。